

令和5年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院大阪梅田校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性を見つけ、才能を開花させる学校
育てたい生徒像	1. 特化型コースで「好き」や「得意」を追求する生徒 2. 自ら考え、自ら学ぶ力を身に付け、何事にも主体的に行動できる生徒 3. 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒

本年度の重点目標	1 教育の質の向上（カリキュラム・マネジメント）と非認知能力を育む探究型授業の推進
	2 グローバル社会で活躍するための英語力の向上と未来を生き抜くための21世紀型スキルの育成
	3 特化型教育を実現するための環境整備と保護者や地域社会との積極的な連携による開かれた学校の実現

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的な方策と方策の評価指標を設定する。

※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

※ 学校関係者評価委員会は、元兵庫県教育次長・保護者代表・卒業生代表で構成した。

自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	現状>ICT教材を用いた個別最適な学習の取組は、一部の教科・科目にとどまった。探究学習は、総合進学コースを中心に進めることができたが、生徒自らが課題解決に取り組む姿勢はまだ弱く、自主的に探究を進められるには至っていない。 課題> ・教員によってスキルの差が出てきている ・個別最適な学習の推進 ・コース授業の内容の充実 ・探究学習の充実	個々の成長を可視化できる仕組みを構築する。	定期的に確認テストを行い、効果を測定する。	・定期的な実施ができたか。 ・個々の効果測定ができたか。	・教科により差はあったが、概ね定期的に実施ができた。 ・効果測定には体制の構築が必要である。	B	各コース・教科での探究学習や教科横断型の探究学習を推進し、知識・技能の習得と主体性・多様性・協働性等の非認知能力の育成が図られるよう、カリキュラム・マネジメントを継続して実施していく。	
		実施している授業の定期的な見直しと検討を実施する。	定期的に教職員研修を実施し、情報共有と改善策を検討する。	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックの実施ができたか。	・定期的な実施ができた。 ・リアルタイムなフィードバックまでには至っていない。	B	また、ICT教材を活用して、現状の習熟度別授業では展開できない、より個別最適な学びを推進していく。	
		21世紀型スキルを意識した授業改革を進める。	各コース・教科での探究学習を計画的に推進し、PBL型授業の充実を図る。	・主体的・対話的で深い学びが実践できたか。 ・主体的に学びに取り組む態度の育成が図られたか。	・教員によってスキルの差が出てきている。 ・生徒の主体性が向上してきている。	B		
2	現状>生徒が意欲的に取り組めるように授業を工夫し、生徒の英語力の向上に努めたい。特に英語に対する苦手意識の強い生徒への指導、支援を強化する必要がある。 課題>・英語の授業の更なる充実 ・ICT教材の効果的活用 ・英検合格者数の増加	英語4技能の習得を目的とした独自の英語教育を実現する。	英語の授業の内容の充実と4技能に基づいた担当指導教員を配置する。	・英語力の向上が図られたか。 ・効率的な授業展開ができたか。 ・生徒の満足度が向上したか。	・4技能がバランスよく向上してきた。 ・生徒の満足度が向上したとは必ずしも言えない。	B	生徒の学習意欲を喚起させる工夫をした教材を用いて授業を行うことで英語力を向上させることができたが、英語が苦手な生徒に対する支援が弱く、低位級の生徒の合格実績に結びつかなかった。ただし、定期的な放課後の対策受業などができ一定の成果も認められた。また、ICT教材を効果的に使用して生徒が自ら学習に取り組めるようにし、英語だけでなく全体的な学力の向上に努めたい。	
		補講等の時間を利用し、自主的に学習に取り組める環境を整える。	英単語を効率よく学習できるアプリを導入する。放課後には対策講座や英検受験指導を実施する。	・継続的な活動ができたか。 ・生徒のニーズに合わせた講座の開設ができたか。	・朝学習での単語の学習時間は十分に確保できないこともあったが、放課後補講は複数のレベルで継続的に実施することができた。	B		
		生徒個々の目標を設定し、合格までの計画的な対策を立てる。	年度当初に一人別の目標設定を行い、英検については第1回目から全員受験を実施する。	・適切な目標の設定ができたか。 ・英検全員受験は実施できたか。 ・合格までの計画的な対策ができたか。	・適切な目標設定ができていなかった。 ・英検全員受験は実施できたが、目標とする合格実績は出せなかった。	B		
3	現状>昨年度に引き続き各コースの特性に合わせた教室配置と備品等も含めた環境整備に努めてきた。コロナ禍以前の学校行事を実施し、保護者を含め外部の方に来校していただけたことで、本校の教育活動を対外的に伝えることができ、一定の評価を得ることとなった。 課題>・充実した学びの環境を提供 ・外部機関と連携した企画の提案 ・保護者への情報公開	コースの特性に合わせた環境の整備と充実した教育備品の設置を進める。	ICT教育・オンライン授業の更なる充実のためWi-Fi環境の整備を進める。	・ストレスなく授業展開できたか。 ・テクノロジーを活用した効率的な学びが実現できたか。	・Wi-Fi環境の整備を行い、若干不安定さがあるものの時間や場所による不具合を概ね解消することができた。	A	教育活動等を継続する上でのICT・オンライン環境は整備がされてきた。一方で将来的な教育活動の充実に向けて、環境整備を今後も継続して実施していく必要がある。	
		大学・企業・地域と繋がる仕組みを構築する。	連携授業やイベントを企画・実行し、対外的にアピールする。	・地域と連携したイベントの実施ができたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・Unicefとの連携や中高連絡会の実施をはじめ、様々なボランティア活動や地域の行事に参加。また、大学との連携を強化することができた。	A	特に情報機器については、定期的な更新や入れ替えを行い、最新機器で教育を展開できる環境を整備する。また、外部との連携による対外的な発信についてもより一層充実をしていくことで対外的な認知度向上にもつながていきたい。	
		生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み（ICTの活用）を作る。	ICTツールやオンラインを活用した情報配信と保護者会の定期的な開催に努める。	・保護者会、情報配信の定期的な実施ができたか。 ・ICTの活用が十分にできたか。	・従来のメールやStudyplusに加えてWE Bやインスタなどによる定期配信ができた。 ・保護者会や説明会を複数回実施できた。	A		

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和6 年10月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・生徒の夢を達成するために、高校生活における3年間でどう育てるかを明確にし、進路実現に向けた指導を強化してほしい。
・教員が生徒に上手く接することが大切である。そのためにも教員一人一人をしっかりと育てて欲しい。
・生徒を中心に考え、教員に生徒一人一人とのよりよい関係づくりについてしっかり指導して欲しい。
・教育の成果は一人一人の生徒の評価なので、生徒が活発になれる授業をして欲しい。
・I C T教育を併用しての教育効果はある程度認められるが、扱いやすい教科とそうでない教科に差が出てきていることがあるのであれば、教員の研修を含め生徒により有効な教育が提供できるようにして欲しい。
・様々な経験をした生徒が集まる中で、英語力の差が大きいことは仕方がない部分もあるが、それでも意欲的に学習させる方法を考え、継続して英語力向上に努めて欲しい。
・新型コロナウィルス感染症が流行する以前の活動がほぼできるようになり、保護者等に教育活動を外部配信でできることになったことは、とても喜ばしい。今後も外部評価を聞き入れ、さらなる教育活動に努めて欲しい。